

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和元年 11 月号

編 集 武田 隆久
発 行 人〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
一般社団法人 日本病院会 教育部教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <http://www.jha-e.com/>受付時間 10:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)発 行 日 毎月 1 日
定 価 1 部 150 円 1 ヵ年 1,600 円(税込・送料込)
郵便振替 00190-5-396045
名 義 一般社団法人 日本病院会 通信教育部

「精神科で診てもらってください」

谷 将之
大内病院 診療部精神科

時々、他の科から「症状はあるみたいだけど、検査では異常がないから精神科で診てもらってください」と言われて受診してくる患者さんがいます。大体の患者さんは、釈然としない、訝しげな表情で診察室に入ってくるわけですが、それはこちらも同じで「身体症状しかないのに精神科で見てもらってって言われてもなあ」と思いつつ診療に臨みます。それで色々な問診や心理検査とかして見ますと、「姑にいびられたから声が出なくなった」といった異常が出れば儲けもので、ストレスもなく、心理的にも全く異常がない人も結構いるのです。そんな時はこちらも困ってしまい、お互いに「どうしますかねえ」など見つめあったりします。

心の作用で身体に症状が出ることを専門的な用語では「身体化」とか「転換」と呼びます。用語はありますが、どうして心の作用で身体に症状がでるのか、という機序ははっきりしませんし、機序から治療に結びつく方法となると更にはっきりしません。昔からよく言われるのが「疾病利得」という概念で、その症状があるからその人には何かの得があって、治ると損してしまうから治そうとしても治らないのだ、という理屈なのですが、そのようなわかりやすい症例は現代社会では少なく、もしあっても大体が心の奥底にしまわれているので、上手く捉えることは出来ません。

結局、元の科に返しても戻ってくるだけですから、どうにかして良くしようと一生懸命話を聞いたりと、対症療法を行ったりしていると、一年、二年とするうちに何となく良くなる人が出てきます。そうすると「ははあ、やはり精神だったのだな」と思いつつも、「身体の病気だって自然寛解することもあるしなあ」とも思うのです。逆に、しばらくして試しに CT を撮ってみると腫瘍性病変がばっちり出てきていることもあり、「ははあ、やはり身体病だったのだな」と思いつつも「精神的な影響もあったかもしれないなあ」と感じることもあるのです。

こういった、身体の症状だけあってまだどっちの診療科に転ぶかわからない、という人は行きつく先が精神科になりやすく、精神科としてはもう少し「どっちに転ぶかわからない人」として診療する必要があると感じます。もしこの先、より包括的な分類が出来るのであれば、「原因不明の〇〇症状」という障害カテゴリを作っただけでこのような不安定な診療をせずに済むと思うのですがいかがでしょうか。

